

三たび「繋がる」日本語について

～community と society 考～

シンキング・バース
日本語研究班

語源探訪から見える community と society

ボクたちはこれまで、コミュニティー (community) とソサエティ (society) と表記されることばについて、幾度かの考察を重ねて来ました。一般的に「共同体」と「社会」という日本語訳が適用されて来たことばです。ボクたちの問題意識は、そもそもコミュニティーとソサイエティとは何を表し、それをどのように理解し、どのような日本語で伝えるのが望ましいかを考察することです。

今回は、community と society の語源的な視点から考察を試みます。

● community の祖形を探訪

■ つのことばは、ヒトとヒトとの「繋がり」が作った集団を表す概念です。その語源は、共にラテン語まで遡ると言われています。

community という英語は、common (共通の／共有の) という形容詞の系列語の一つです。“com -” という接頭辞自体に「共通の／共有の」の意味があり、ある種の共有観念を表しています。common は、“com” + “mon” で構成された単語になります。

common の語源とされるのは、ラテン語の commūnis (コムニス) です。やはり形容詞で、“com” + “mūnis” の単語構造

になります。“com -” は、“con - (共に)” の同義異表記で、単なる綴り上の問題です。なお、前置詞 “cum” には、「～といっしょに (with)」の意味があります。



次に “mūnis” です。「人に尽くそうとする」ことを表すとされ、複数形の mūnis には「役目／公職／捧げもの (税)」などの意味があります。動詞の mūniō は、「防壁を築く／建設する」などの意味です。

つまり commūnis は、「(人々の) 共通の役割や価値 (城壁など)」を表す概念と考えられます。その系列語の一つに、commūne (コムネ) があるのです。commūne は、中世イタリアのヴェネツィアやフィレンツェのような自治都市などの領域を指したことばで、現在のイタリアの基礎自治体 (市町村) にも適用されています。commūne の日本語訳は、「共有財産／共同体／国家」となっています。都市国家的なエリアで、防衛ラインの内側に暮らす人々の共有域のようなイメージと考えられます。

● society の祖形を探訪

英語の society は、一般的に「社会」と日本語訳される単語です。英語の関連語には association (連合／提携) があり、ヒトとヒトとの結びつきを表しています。

society の語源とされるラテン語は、socia (ソシア) と socius (ソシウス) を挙げる

のが妥当です。socia は、「仲間」を指すと
言われ、男性が女性を指して使うと「妻」
という意味になると考えられます。socius
は、主に男性同士の「仲間／盟友」などの
意味があります。形容詞用法もあり、「連合
の」のような意味があるとされています。

動詞の sociō (ソシオー) には、「結合す
る／連合する／結婚させる」の意味があり
ます。女性とベッドを共にすることも sociō
で表せるとされ、「セックスする」という意
味にも使えます。いずれにしても、「結びつ
いた関係」のことを表すことばと言えます。

つまり socia や socius、sociō は、ヒトと
ヒトとの「繋がり」が作る関係に力点を置
いたことばと言えるのです。commūne が
ヒト集団の大ざっぱな全体のイメージが強
いのに対して、一人ひとりの結びつきがよ
り強調されたヒト集団を指すイメージと言
えます。

●「社会」という日本語とのギャップ

さて、ここからは、日本語の問題
としてのコミュニティーとソ
サイエティについてです。現実
問題としてボクたちは、コミュニティーと
いう表記法を使うことはあっても、ソサイ
エティという表記法は、ほとんど使いませ
ん。そこには、コミュニティーの翻訳語と
なった「共同体」が、結果的に日常語とし
て浸透しなかったのに対し、ソサイエティ
の翻訳語「社会」は、一般的に広く普及し
たことが要因の一つに挙げられます。

ここで問題になるのが、本来はヒトとヒ
トの個別の「繋がり」に根ざす society のイ
メージを、「社会」という日本語は十分に伝
え切れず、逆に community のようなイメ
ージで「社会」が使われるケースが多いと
いう言語ギャップが生じていることです。
ボクたちはけして、「社会」という日本語を

悪者にしたい訳ではありません。むしろ、
このギャップは、乗り越える必要があると
考えています。

●「社会」が担う日本語の課題

中 国・武漢付近を発信源とする
「新型コロナ・ウイルス」の流
行は、ウイルス自体のヒト社会
への拡散と共に、メディアを通して伝えら
れる情報（ことば）が拡散（流行）したと
いう側面を持っています。感染者が増え続
ける武漢周辺の状況は、その地域が抱えた
community の問題です。一方、武漢に親族
や知人がいる遠隔地の関係者にとっては、
その「繋がり」は society な問題と言えるの
です。また、武漢から避難的に他地域に移
動したヒトがいたとして、その避難地の
人々の community は、公共の安全を脅か
す可能性がある存在の需要者になります。
しかし、避難者とその関係者にとっては、
その地域の人々との関係性が重要な位置を
占める society の問題になるのです。そのち
がいをどう伝えられるかは、情報伝達ツ
ールとしての日本語の問題になります。

ボクたちは、ウイルスの拡散と情報（こ
とば）の拡散が、同時並行的に起こる「社
会」に生きています。その中であって、俯
瞰的な枠組みを表す community と、ヒト
同士の「繋がり」を基本にした society とは、
そのちがいの認識こそが大切になることば
です。日本語では、その両者を混同した概
念として、「社会」が普及しています。ボク
たちは、「社会」という日本語は、とても重
要な役割を担わされているからこそ、その
使い方には留意が必要だと考えています。
community と society のちがいを「社会」
でどう表現するかは、日本語文脈の一つの
課題なのです。

(2020年2月10日)

※参考にさせて頂いた書籍 水谷智洋編『改訂版 羅和辞典』(2009年、研究社)、ジョーゼフ・T・シップリー著、
梅田修ほか訳『シップリー英語語源辞典』(2011年、大修館書店)

シンキング・バース新書

ボクとワタシの日本語診断
三たび「繋がる」日本語について

2020年2月10日（初版）発行

著 者：シンキング・バース
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属
しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。